

## 地域レベルでの学力が低いと認知症の発症リスク上昇

地域レベルでの学力と認知症との関係についてはよくわかっていない。本研究では、認知症の発症リスクと地域レベルの学力との関連性について検討した。また、都市部と非都市部における潜在的な関連性についても併せて検討した。

日本老年学的評価研究 (JAGES) の 2011～2012 年のデータをもとに、7 県 16 市町村 364 か所に住む 23,785 例を 6 年間追跡した。認知症の発症については、介護保険制度から得られたデータで評価した。結果、追跡期間中の認知症の累積発症率は 10.6%であった。地域レベルでの低学力は高学力と比べ、認知症発症率との間に有意な関連がみられた (ハザード比 1.04)。また、非都市部では低学力と認知症発症率に有意な関連が認められたが (ハザード比 1.07)、都市部では認められなかった (同 1.03)。

したがって、地域レベルでの学力の低さは、高齢者の認知症発症リスクと有意に関連することが示された。また、非都市部で有意な関連がみられたことから、認知症予防においては、とくに都市部以外では青年期の教育を確保することが重要であるといえる。

出典 : BMC Geriatrics. 2021 Nov 23; 21(1): 661.